

社会人のための情報システム誌
— 経営近代化のシステム研究 —

Computer Report 4

2013 No.703

3 はじめの言葉

4 談合の苦手な日本と TPP 問題

思考停止を回避する心構え

田原文夫

議論をする前に議論をすべきではないという喧嘩が始まるのが、日本の憲法改正問題である。同じようなことが、日本の TPP 問題で起こっている。憶測が飛び交っているようだが、日本主導で日本的 TPP を作る。そういう姿勢、目論見があってもいいのではないだろうか。少なくとも、そういう取り組み方、考え方が必要ではないだろうか。海外からの声に弱い日本。卑屈なまでに受動的が過ぎるのではないだろうか。言葉遊びはなく、談合と話し合いの意味を今一度考え直してみることも必要だろう。談合という言葉が嫌いだということから、考えること自体を全否定しまわなければ、本当の議論はできない。へんな思考停止状態が一番怖い。

10 情報社会を考える その31

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

これでもユーザーニーズか

今話題のスマホ／タブレット端末である。いずれも、電話機能に各種のアプリケーション機能および通信機能を備えた多目的携帯システムである。文字通りの「情報社会の申し子」的存在である。若者だけでなく、かなり老世代にも普及してきている。むしろ直近では、熟年老世代への普及率の方が高まっているかもしれない。

12 日本再生／世界競争力回復のカギ

何故 M-BIM 構築が必要か その26

水田 浩

■まちづくりの BIM : シャレット

国土交通省は今年 3 月 21 日に、道路やトンネルなどインフラの老朽化対策の工程表を発表した。インフラの総点検は平成 26 年 3 月末までに終える。対象は、道路や港湾から河川、ダム、空港、鉄道などの多岐にわたる分野の施設。国管理のほか、地方自治体にも及ぶ。

17 連載 アーキテクチャ論 (24)

保証ベースアーキテクチャ開発法

山本修一郎

本稿では、Graydon と Knight、Strunk によって提案された保証ベース開発手法[1]について、情報連携サービスのアーキテクチャ開発を例に解説する。保証ベース開発手法は、保証ケース（アシュアランスケース、Assurance case）に基づいて、高信頼システムのアーキテクチャを段階的に保証しながら開発する方式である。アシュアランスケースの概要

については、本連載第 19 回「アーキテクチャ有意要求」で説明したので、それを参照していただきたい[2]。

2 7 トップインタビュー JFE エンジニアリング

人を育てる企業の先端ビジネス

編集部

スキルズインベントリを基盤とする人的資源管理の実践

コスト削減も経済活動原則のひとつかも知れないが、人件費を削除するため自社内での人材育成経費をコスト削減の対象とするのはいかかなものか。それを反映している社会現象が丸投げアウトソーシング方式による外部業者依存の横行である。自社に必要な人材がおらず、外部にいるという発想である。そもそも、自社に必要な人材が社内にはいないで、社外に存在するということが奇異であり、異常である。ならば、今在籍中の社員はどういう人材であるというのか。こんな素朴な疑問を持っているところに、「自社で必要な人材は自らが育て、かつ有能な人材を広く求めている」という元気な会社の存在を知った。さっそく、人的資源管理の最前線で陣頭指揮をとる人事担当役員 小西健一郎氏に聞いた

3 4 ものの造れる日本再生に向けて その 19

第二／第三の創業へ

Dr.ベスト

第 19 回 スキルズインベントリを基盤とする

人的資源管理 (HRM) システムの構築 (5)

1970 年代のオイルショック後の 1980 年代は「激動の時代」と予測されたが、実は、「ジャパンアズ No1=No1 としてのニッポン」という、今にして思えば黄金期だった。その黄金の夢が一気に醒めたのが、1991 年のバブル崩壊という悪夢からの出発だった。そしてそれは、さらに厳しい姿勢で日本全体の産業界のリストラクチャリングに挑戦する時代の幕開きだった。まさに温故知新である。新興国にはない一企業の枠を超えたりストラクチャリングの歴史をひもといてみよう。鉄鋼、造船、エンジニアリング、自動車、電気・電子業界の動向を追いながら、これからの日本再生に向けて踏み込んだ展望をしてみたい。

3 9 ユーザー視点でのサーベイのススメ

情報活用現場の実態を把握せよ

aism

シビアなデータ／情報を取り扱うのは情報社会の特性である。実状実物を目にする前に、情報によっていち早く実態を把握することで、我々の日々の活動を、より合目的にすることができる。情報活用を前提として、社会の仕組みは動く。改めて言うまでもないことだ。しかし、その情報の活用実態を把握する情報が正しく掴めていない。何とも皮肉な話である。情報活用の実態が把握できていないということは、どこまで正しい事業活動ができていないかが把握できていないということにも通じる。紺屋の白袴という諺があるが、情報社会のとんだお笑い草である。しかし、笑っている場合ではない。

4 3 IT 新時代とパラダイム・シフト

第 4 2 回 新マイナンバー法の不安な門出

根本忠明

この 3 月に新マイナンバー法案がようやく成立する見通しとなったが、新制度の船出しには、前途多難な道程が待ち構えている。制度の目標が曖昧化され、複雑な行政手続きが温存されたままだからである。このようなケースでの情報システムの構築は、ほとんどが失敗に帰している。新マイナンバー法案が成立するまでの経緯を振り返りつつ、これまでの

問題点をチェックしていきたい。

4 6 続インテリジェンスへのいざない 39

ひとつの事実に対する正反対の判定基準の影響

今井 武

事実を示すデータはひとつでも、それを評価する判断基準が唯一無二であるとは限らない。奇しくもそれを見せつけてくれたのが、国民の一票の重さに関する司法の判断である。しかし、全国各地で起こされた訴訟に対する判決の流れは、確実にひとつの方向を示している。大仰に言えば、現国会の存立基盤を揺るがす違憲判断が出ている。それに対して政府は、控訴して争うとしている。何とまあ、不可解な人々であることだろう。そもそもが、選ばれる側が選んだ選ばれ方である。出発点からして間違っているとも言える。国民とは正反対の判断基準を持っている人々だということか。

4 9 一味違うウェブ検索

第三十三話 統計数値に注意する ②政府発表の試算値に注意せよ

ぐうのうえぶへい

情報過剰時代は、逆説的であるが情報自体に説得力が求められる。このため重宝されるのが統計数値であるが、怪しげな数値が数多く見受けられる。政府が発表する試算値も例外ではない。今回は、政府が TPP 参加のために発表した「TPP 参加の経済効果」の試算値を題材に、注意を喚起したい。

5 1 連載 バカヤロー侍 悪を斬る

すぎやまチヒロ

☆☆

WebCR 編集部からのお知らせ

本誌に連載／掲載されている記事に関するご質問、ご意見をお待ちしております。近い将来に予定されているプロジェクトに先立って不安や問題点の確認をなされたい方、現在進行中のシステムのプロジェクトマネジメントにおけるトラブル関連など、何でも結構ですので、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

cr-info@jmsi.co.jp

☆☆

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版
データ・ウェアハウス

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300) A5版 289頁

石井 義興 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの相違点	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネストド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス
OLAP

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構築
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 181頁

田原文夫 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの
落とし穴

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修
aism情報セキュリティ・マシントリニティ研究 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除記
第二章 aism情報セキュリティマシントリニティ研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 認知される電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネット運用のための
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最新のインターネット防衛戦線心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2012年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたっての
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	インターネット関連の苦情と不正アクセス
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！
トップ主導の
情報システム革新

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 271頁

高田 顯重 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 213頁

安田 聖 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分解方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ！というときの(得)広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300) A5版 228頁

加藤 洋一 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売れない企業体質
■ ニュースリリースは東方向選定	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれ、国際グローバルサーバー—
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300) A5版 268頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 発端	第十一章 日本開港手続の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米商チーム崩壊の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たなメンバー
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米商事務所移転と新たな組み
第五章 FJO、IBM競争	第十五章 開港手続とハンタツ
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番後日誌
第八章 米商チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働時の一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米商チーム、異なる三人組	第二十章 稼働時の二 安眠薬と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp